

0373

第三十四軍作戦記録

第五節

34A
多謀
扇
盾

1331

1226

第二 停戦時の状況

一 八月十日停戦の大詔依り各島面及部隊に其の旨命合す。此の時迄
軍は戦況を一部隊あり

二 八月十日停戦の大詔依り各島面及部隊に其の旨命合す。此の時迄

軍は戦況を一部隊あり

陸軍

東京・岡本ノード納

第三 觀 幸

一、停戦時吾人の苦も痛憤を感じたるは朝鮮人なり、彼等は従軍の恩

誼を忘り停戦と共に日本人に暴行を加ふる日本人信託の押こ入り強迫と

働く者出で来り、ソ軍の進駐と共にその行為は益々露骨と極めソ軍の

手引きと行ひてソ軍と共に掠奪強姦等を行ひ日本人の生命を固有と

稱して白擧し或は日本人の食糧を収給せず日本人を法外の高價と

食糧と

して賣却する等々累状言詰り絶す、但し

陸 軍

井、予中、存、を、い、さ、る、日、本、人、と、成、護、さ、る、も、法、に、解、少、い、あ、り

二、停戦と其の日本人の依る政府機構は一切の権能を失ひ、全日本人の悲憤を

境涯に轉高せるは茲に詳述する要なしと思惟す

三、ソ軍に對する觀察も、茲に特記するに事あるに、只吾人の停戦

（停戦の）

より釋放迄約四年之久の日子を通じ、其の敬服するに困苦

るを觀望するの管理に堪ゆる能力なり、吾人の其の思ふに、米軍と

交戦し、米軍に抑留せられたる者、日、米、軍、の、接、觸、の、會、場、と、米、軍、の

東京・副本ノ下納

陸軍

物量と比較し米軍と比して近衛軍の如きの多量と思惟せしなむも

吾人は日本が平和とて寧ろ其の堪え得る戦中閉鎖の泥水と

拘しと欲むと其の感歎せしも多し、其の日本軍の支えあはする

意志なきも彼等の永高並の状況下に平和を以て得る他山の石とすべし

所あり

四ノ軍の一大隊は武装解除時の感想として日本軍は世界一被服装

備の優秀なる軍隊とて又此の世界一兵器も整備の秀る軍隊あり

や軍隊を、是たのや軍隊敗る等々何故か兵若果にたると
ソレヤ余を全く不可解なりと、

五、情報業務之實現するにソ軍の如き強固な世界に類例と見ざる非

おや之思惟す、彼等の謀報防諜はその特殊の国情に因由するもの

なるも人材予算器材等各般に更なる支那の特殊の組織

有るに依り日本、人抑留者に対する調査に情報関係のことは用意固

到る極む

東京・岡本ノ一少将

陸軍

六、ソ軍の常識教育の不足は一驚い、例せば、目覚時計を知る者

写真撮影のやりこやツターをまねた直に御面紙に影像がうつりまると

思惟する者、算術の掛け算割、算を知る者(特攻隊も少くあり)

ライターを知る者、特攻隊の口の中を文を解する者、死し得 善々

七、前記のソ軍の長所欠陥を圖しては戦前日本に於て研究せられ

る。範囲とあるが

東京・岡本ノリ子納

1233

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>